

伝統的織物、バッグや靴下に

クリエイター

布に顔を近づけると、不思議と目がぼやけてくる。これは福岡県の伝統的な織物、久留米緋（かすり）の職人とつくったもので、久留米緋は織る際にヨコ糸が不規則にズレる特徴がある。そこに着目し、黄色や赤、青、緑に染めた糸をそれぞれ織り込むことで目を混乱させて錯覚を起こさせる効果をより引き出した。

光井花さん（35）が昨年、テキスタイルデザイナーとしてイタリア・ミラノで発表したこの作品は大きな話題を集めた。今年に入って、その織り柄を発展させたバッグやハンカチ、靴下といった商品が相次いで誕生している。

多摩美術大学でテキスタイルデザインを学び、さらに深めようと英国に留学。帰国後はイッセイミヤケ（東京・渋谷）で7年に渡って、各地の産地の職人とテキスタイルを開発した。独立を機に「日本の伝統的な織物を今の暮らしに再提案する」デザインを志す。福岡のインテリアメーカーとは、染めたイ草で織ってモナリザを描いたモダンなゴザを発表した。

